

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

池工に「ボルダー壁」完成・・・遊びにおいでください

長野県山岳協会の協力により、11月10日に、池田工業高校の格技室に縦4m、横5.4m、115度のボルダー壁が設置された。(写真参照)

そもそも、この壁は3年前に駒ヶ根で北信越国体を行なった際のリード壁の後利用の壁である。この後利用は県体協がリード壁を予算化するにあたっての、長山協への宿題



であった。長山協としては、クライミングの普及強化の観点から、3分割して県内3高校へ設置するというのでその宿題を果たすこととし、これまで大町北、松本美須ヶ丘の2校に設置(かわらばんにて既報)してきた。3校目の学校をどこにするかが未定であったが、偶々今年池工に赴任した私が、校内で話をする中でとんとん拍子に話が進んで実現した。

・・・9月下旬の中間テスト最終日、野球部の監督もしている体育科の先生の依頼で山岳センターの人工岩場で野球部・山岳部の合同クライミング練習をした。その際の監督の「こんな壁が学校にもあればいいですね。」ということばが火付けとなった。それからわずか1ヶ月半ほどで一気に話がまとまった。体育の授業で使えること、山岳部ばかりでなく色々なクラブで使えること、また一般の生徒のトレーニングやHRでの使用など様々な場面での活用が考えられるなどの理由で、体育科をはじめ、クラブ顧問会等でも前向きに考えていただけ、それを受けての管理職の了解や事務長の予算措置もありがたかった。

施工は、国内の多くの壁を手がけ、長山協の副会長でもあり、アートウォールを主宰している森山議雄さんである。忙しい中、文字通り手弁当、ほとんどボランティア的に作って下さり、壁の設置からホールドの設置、ルート設定まですべてを1日でやっていただいた。

早速設置された翌日の体育の授業から積極活用がなされており、昼休みなどにも生徒



授業で！



部活動で！



休み時間に！

には随分使われている。私としても最初からこれほど多くの人に使われるとは思っていません。逆になかなかの好況で、逆にびっくりしている。噂を聞きつけ、僅かな時間を利用して「やらせてくれないか」と国語研究室を訪ねてくる生徒が引きも切らない。まあ、最初だから物珍しさも手伝っているのだろう。今後この熱を一過性のものとして冷ましてしまわないように、じわじわと燃え続けるものとしていけるような活動をしていきたいものだと考えている。

設置するにあたって、安全管理の面で、「使用規程」を定めたのだが、そこには、「長野県山岳協会関係者および県下高等学校山岳部生徒・教職員等の使用にあたっては、体育科職員または山岳部顧問の了解のもと、その管理下で使用するものとする。」という一項を入れてある。ここでいう山岳部顧問とは、いうまでもなく小生のことである。したがって、小生にご連絡いただきさえすれば、遠慮なくつかっていただける。近隣の学校の先生方、生徒を連れて遊びにきてください。楽しめます。

一方で、「ボルダー」は両刃の剣のようなところもあって、うまく活用しないとお荷物になる危険性をも包含している。そうならないためには、私一人の力では限界がある。そもそも私自身のクライミング技術は皆さんご承知のとおりで、すぐに生徒に抜かれてしまうレベルである。生徒の進歩は予想以上で既にもうそうなりつつある……。ボルダーに長けた長山協関係者の支援も仰ぎたいと思っている。そういう意味でもぜひ多くの長山協の関係者の皆さんにも来ていただいて、一緒に使用する中で有効活用していきたいと考えている。

いずれにせよ、これからのウインターシーズン、外で活動が出来ない部分を補うには格好の活動拠点となること請け合いです。「幸い」といっていいのかどうか、本校には現在格技室を本拠に活動するクラブもないので、格技室が放課後はクライミング専用施設となっているのも好都合だ。大西に連絡の上、一度おいで下さい。

中信安全登山研究会 冬の検討会

標記の会議が11月30日(火)に行なわれる。このところ出席者が固定化、なかなか十分な検討会になっていないのが気になるところである。年度末の忙しいところだとは思いますが、今年度の学校登山の総括と山岳部活動の総括、これからの冬の活動の検討をする重要な会議だ。すでに事務局の大町北高校から各校に通知が届いていると思う。ここ数年は、様々な配慮で開始時間を遅らせ、夕刻からの実施となっている。事務局の大町北高校西牧先生には、ずいぶんご苦勞もいただいている。そのあたりをお汲み取りの上、関係のすべての学校から出席していただきたいと思う。

編集子のひとごと

20日、21日に「北信越高体連連絡協議会」が富山市で行なわれた。小生は、昨年同様国立登山研修所で行なわれた「安全登山普及指導者中央研修会」と重なってしまい、そちらに出ていた関係で、会議には出席できなかったが、会場が隣接していたので、夜の懇親会に顔を出すことができた。懇親会の会場は例によって大盛り上がりで、「北信越の絆の固さ」を感ずることができる一時だった。今年の北信越大会は長野県の黒姫山で行なったが、その責任者の一人として各県の先生方にお礼をいうことができた。来年は富山県「立山」での北信越大会である。北信越ほどの県もいい山がある。(大西 記)